

# 令和元年度第1回 豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会議事概要

日時：令和2年1月23日（木）  
午前10時～11時52分  
場所：豊能町役場大会議室

○午前10時開会

【1】あいさつ・出席人数に基づく会の成立の確認及び傍聴承認（2名）

【2】出席者紹介

【3】議事（報告）

- 1 豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプラン平成30年度事業実績等について（「地域再生計画」制度活用による計画の実施）
  - （1）【地域ぐるみの定住促進】について（資料2（p1～4）により説明）
  - （2）【農×観光戦略】について（資料2（p5～6）により説明）
- 2 豊能町人口ビジョンの改訂骨子（案）について（資料3により説明）
- 3 豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略の期間延長について（案）（資料4により説明）

【4】その他

○午前11時52分閉会

## 令和元年度第1回豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会主な意見の整理

### 1 豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプラン平成30年度事業実績等について（「地域再生計画」制度活用による計画の実施）

#### （1）【地域ぐるみの定住促進】について

##### （委員）

- ・大きなうねりのようなものがない。単発的には事業があるが、住民は知らない。トヨノドリームにしてもそこに参加している人は活性化しているだろうが、それが全体を巻き込む活動が全然できていない。
- ・人口は簡単には増えない、減る一方だということは仕方がないと思うが、20人増えた、10人増えたというレベルでは間に合わないのではないか。インパクトが足りないのではと思う。

##### （事務局）

- ・活動している方と地域住民の方の情報共有が十分にできていないことは認めるところ。活動している方と地域住民が一体になってこそ本来の成果が出るものと思っている。気を付けてはいるがまだまだ足りないと思っている。
- ・人口減少は避けられないが、特効薬というのは難しい。自然増減は仕方がないが、転入を増やして社会増減を±0にすることに向けて、細かいところから進めなくてはと思っている。
- ・一気に人口減を止めることは難しく、今のところ地域の方々の力をいただいて、地域が元気なることで魅力的になり、外から来ていただくという地道な手法をとってやっていきたいと思っている。

##### （委員）

- ・まち全体として考えないといけないことは、一般住民は、まちづくりは町がやればいい、なぜ地域がやらなければならないのかという意見がほとんどだということ。
- ・能勢電車のダイヤが変わり、例えば30分に1本になれば絶望だと思っている。10年ほど前の状況のように、豊能町は教育が優秀だという噂が立ち、里山環境を残していれば、電車も来てくれてよいと思う。能勢電車が10分間隔で来ないようになったら、いくら頑張ってもここに住む人はいないと思っている。だからそのあたりを重点的にやらなくてはいけない。
- ・豊能町は高齢化しているが驚くほど健康寿命が長く、不健康な期間が非常に短い。他の地域と比べても、健康寿命が長い。だからなんとももっているけれども、いつかは破たんするのではないか。色々と総合的に考えていかなければいけないと思っている。
- ・今、牧で農業活動がうまくいきそうだと聞いている。あのような活動を育て、それを見本として活動できるようになればと思っている。

##### （委員）

- ・総合戦略事業に関し、活動している人たちは上手くいっているので、自分たちの中だけで活性化し

ていることになるが、そこはその方々にお願いをして発信していただくことは極めて大事である。

- ・環境などを研究していると、“恐怖のメッセージ”が効くのは自己効力感の高い人に対してであり、行動を変えていただける。ただ、自己効力感の高い人は珍しい。「何かを変えなければ」と思っている人に良くない状況を伝えると、「だから変えなければならない」となるが、一般の方は辛い状況になると、その場から逃げたいと思ひ、自分の行動は変えないというようになりかねない。
- ・そういう方々にはポジティブなものを見せなければならない。危機感は共有しなければならないが、その中でもこんなことができるということを見せることが大事。さきほどの健康寿命が長く、不健康な時期が短いということや、教育を頑張っている、地域でこのように頑張っている人がいるといった情報を共有していくことがまずは非常に大事だと思う。又、そういうことは外の方にも触れることも大事だが、町民の方に触れることが大事。
- ・人口減少に特効薬はなく、漢方薬を飲み続けるような形にはなるのだが、なかなかそういう形でできないのだろうと思った。

(委員)

- ・資料(タブロイド紙)「トヨノ」の中でもトヨノレポーターの方で何名か町外からの転入者の方がいるようだが、町外からの転入者の定着率はどうか。

(事務局)

- ・現在データは取っていないが、総合まちづくり計画の準備をしており、そのアンケートの中で傾向をとって定着率は推し量れる。

(委員)

- ・学校と地域の関係が徐々に崩れており、相互監視の傾向が強くなってきている。その結果、批判されるのであれば、何にもしないでおこうというようになってきていると感じる。
- ・吉川保育所とひかり幼稚園で月に1回哲学教室でお伺いして子どもたちと話をしているが、子どもたちは変わる。子どもたちは刺激さえすれば自分で学んで考えてくれるようになる。去年にOECDでの評価で日本の思考力が先進国で最下位という結果も出ていたが、こういう子どもたちを見るとどうして思考力が低下しているのか本当に疑問。
- ・相互監視の世の中をどうやって変えるのか。定着率をお聞きしたのも、相互監視がきついと外から来られた方も出て行ってしまいますので、そのあたりが気になったからである。

(事務局)

- ・転入した人に、どのくらいおられるかということで定着率はおおむね推定できると思うが、転入してすぐに転出していった人はアンケートができないので、そのあたりの実数もつかむ必要があるかと思う。

(委員)

- ・アンケートで数字をとることも大事だが、定量的なものだけではなくて、定着した人がどうしているのか、定性的なものも人の行動を変えるには大事だと思う。まさに、そのような物語を発信するのは資料（タブロイド紙）「トヨノノ」のようなもの。難しいかもしれないが定着しなかった方がどういう物語だったのだろう、逆に定着した人がどういう物語だったのだろうといったその人の物語を捉えていくことも大事であると思う。

## （２）【農×観光戦略】について

### （委員）

- ・吉川、妙見口駅前では能勢電鉄の企業努力により、来訪者、観光客、ハイカーの増加が顕著に見られていて、特に台湾、韓国、中国のインバウンドがかなり増加している。町としてどう見ているのか。
- ・20年前は、町に吉川地区を観光地として力を貸してほしいと言うと、行政は、吉川地区は観光地としての認識はないとはっきり言われて、残念な思いをしたことがある。
- ・電車が10分に1本というのは本当にあり得ないことで、能勢電鉄と話をする、頑張らなければ本当に本数がどうなるか分からないという話をされる。今は希望とか夢があるがこれが、例えば、冗談だが3時間に1本など、ないとは思いますがそうなるかと絶望しかない。
- ・妙見山のバーベキューテラスのリピーター、周辺の黒川ダリア園、能勢の大ケヤキなどの外貨収入を見逃しているのではと思う。
- ・今後、あきらめずに吉川地区で観光コンテンツの創出ができればと思っている。できれば能勢電鉄、行政に力を貸してもらって、人も大事だがお金も大事なので、そのあたりに注力していただきたい。
- ・前もお話ししたが、そろそろ高山に行くアクセスも含めて、妙見口にスポットをあて、フューチャーしていただけないか。

### （事務局）

- ・インバウンドの問題については十分承知している。2025年万博に向けて関西地方にたくさんの人が来るであろうと思う。まずは外国語の対応ということで看板の設置といったものが必須ではないかと思っており、それについては観光協会と相談しながら対応できるように考えていきたい。
- ・吉川地区は妙見口を中心に、花折街道ということで一生懸命に活動されていることは十分承知している。これまで街道の活性化に向けて国による地方創生の交付金で金銭的な支援をさせていただいた。交付金が今年度で終わるので、今後はインバウンド対応も含めて何か良い方策がないか、新たな交付金も取りに行けるように考えていきたい。
- ・豊能町はそれぞれのポイントをなかなか回遊できないという致命的なところがある。色々な機関と連携しながら方策を考えていかなければならないと思っている。今後の課題と考えている。

### （委員）

- ・鉄道ダイヤの件だが、いまのところ減便はないが、一般的な考えとして、未来永劫このダイヤを保証できるものではない。お客様は減っている状況なので、将来もずっと続くと、どこかで、ということの可能性としてはある。ただ、そうならないように努力していきたい。

- ・インバウンドは徐々に増えていると現場の人の話も聞いている。今年度海外向けの企画券を発売するなど、インバウンド対応を始めている。今まで大阪の中心部にいた人が周囲に来ているようだ。一度来られた方にまた来ていただける環境整備、体制整備が重要と思っており、そのあたりのところを考えていきたいと思っている。

#### (委員)

- ・3年ほど前、能勢電鉄に大阪大学の学生が地域活性化についてプレゼンテーションを行った。そのときに、豊能町は観光協会や地域などによって設置された看板がバラバラで、ついている高さもみな違うという状況なので統一すべきということや、日本語だけしかない、妙見口、黒川、能勢も含めてバラバラで良くないという話であった。
- ・その学生たちが3年生になり、クラウドファンディングで看板整備をやりたいということで、そのような看板を立てても良いか、又は一緒にやらしてもらえないかという連絡が池田土木事務所を通じてあった。豊能町にも連絡があったと思う。
- ・チャンスはあるが、みんな逃がしてしまう。逃がしてしまうのは、“そういうことを全然考えていなし、全然やりたくないから、多数決をすると「辞めます」と、こういう形で辞められてしまうからであり、非常に残念。
- ・そういう人たちにあまり危機感を持たせてはいけないのだが、理解してほしい。高齢者になってどうしようかという問題があったら別だが、比較的豊能町の高齢者は元気がいいからそういうことをあまり考えていない。それが良いことなのか悪いのか分からない部分はある。

#### (事務局)

- ・大阪大学の件については池田土木事務所より連絡があったが、看板の話までは聞いていない。その後情報は入ってきていない。
- ・町では、農×観光戦略で国の交付金を使い、観光の専門家に町内くまなく歩いてもらった。問題点を指摘いただき、また、インバウンドの方へのインタビューも実施している。駐車場がないことや、看板の統一性がないことも指摘として挙がっている。そういったことは観光ボランティアの会の方も承知されており、なんとかしていきたいという話が出ている。今後そのようなことを観光協会も含めて進められるようにしていきたいと思っている。

#### (委員)

- ・東地区で商売をしているので、西地区は能勢電車があって、吉川地区の賑わいがあるってすごく良いと思っている。かめたにさんを通して、吉川地区に来てもらった人に商品を販売してもらっているので一事業者としては大変うれしい。東地区は電車がなく、車のみ。
- ・最近店には自転車の方も多いが、雨が降れば来ないし、特に冬場は来ない。自転車の人は荷物を持てる限界があるのでやはり少ない。バスも本数が少なく、バスで来られる方は少ない。
- ・その中で道の駅について、モノを売れる場所が事業を続けていく中で大切で、それが地元のできるというので非常に期待していた。
- ・それを見送った中で、町外に対して売ることも事業の一つだが、やはり町内で商品が回っていく方

が、一事業者としても商売がやりやすい。

- ・今後加工品を増やしていく中で、町内でしっかり売り切るといった部分がどうなのか。そういった場がないと新しい商品を作る、または新しい加工場を町内で作るといった事業者が現れるのかどうかなども踏まえ、志野の里や他の売る場所について何かあるのかお聞きしたい。

(事務局)

- ・志野の里はチャレンジショップという位置づけで、道の駅ができたときはその場所に移転し、拡大していく、それまでに農家を集約して豊能町の農業の安定を図っていこうということで設立した。現状の店舗売り場面積は狭く、駐車場も狭い。このままではこれ以上大きく発展を望むのは難しい。
- ・お客様も非常に増えていっており、レジ通過者数は毎年5%、10%ずつぐらい伸びてきている。町外にも販路を拡大しており、売り上げは20%くらい伸びている。今の段階ではどうしても志野の里での販売が中心となるが、今後、町外や西地区に販路を拡大していきたいと思っている。
- ・また、志野の里運営協議会が主体となることではあるが、他の企業と連携できることがあれば、店舗を拡大していく方策も考えていくことができたらと思っている。

## 2 豊能町人口ビジョンの改訂骨子（案）について

(委員)

- ・コーホート分析をしているので、15~49歳の女性人口にほぼ比例するような形で0~4歳人口が決まってくる。前回の0~4歳人口の推計は比較の実績に近く、20~39歳の実績が推計より減っているというのはコーホート分析の性格上、合計特殊出生率の仮定値が思ったほど下がらなかったということなのかもしれない。
- ・一般的なコーホート分析の性格から、データが齟齬しているということが不思議で、齟齬があるということは何らかの現象が起こっているのではと思う。
- ・本当は20~39歳人口が落ち込むと、5年間でため込まれた0~4歳人口がぐっと減るはずだが減っていない。これは町から出た人が独身・単身が多くなっていることを表していて、それは合計特殊出生率には表れない。若手人口が推計より下振れした割には0~4歳が下振れしていないことは特徴的だと思う。

(事務局)

- ・豊能町の特徴的な転入転出パターンとして結婚のタイミング、就職のタイミングで転出することであり、これは新興住宅地ではどこでもそうなのかもしれないが、特に豊能町はそうになっている。
- ・また、10ページで転出よりも転入が多いのが0~9歳だけというのが特徴で、豊能町では独身で過ごされて結婚就職を機に転出し、町外で出産し、そのあと豊能町へ帰ってこられる方が、Iターンの方も当然いると思うが、他の地域で出産して豊能町に転入しているのであろうと思っている。
- ・実際、豊能町で生まれている子どもの数よりも小学生の数が多いということがある。10ページが示

している通り、子どもが転入している、ということはその年代の親も転入しているだろうと分析している。

(委員)

- ・コーホート分析は0～4歳は親世代の転入転出の影響を受けるが5～9歳はあまり影響を受けない。事務局の話からすると単身・独身の転出している比率がかなり高いという状況と思われる。
- ・2065年などの推計値を改めて見ると衝撃的な数字だが、このあたりも冒頭に話したように、衝撃的な数字を示して何か人の行動が変わるかという一般的なには行動は変わらない。そういうところからすると改訂するビジョンが下振れしたことは仕方がないが、それでも豊能町の中でこうやって暮らしていけるという明るいメッセージ、個別の人にはこういう利得があるという話を強く打ち出していけないといけない。
- ・前半にあった戦略、アクションプランの結果、KPI等の数字も伝える必要があるとは思いますが、一方でこういう取り組みをしているという内容も人口ビジョンを広報することと抱き合わせで伝えていかなければならない。

(委員)

- ・人口を増やすのもマーケティングの問題だと思った。子どもを育てる親は非常に都合が良く、子どもが小学生、中学生の時は自然の豊かのところで育てたい、高校受験が目前になるとやっぱり田舎では困るなどと思って移転先を探す。そのあたりの影響も統計から見て取れるのではと思う。
- ・11、12ページの資料を見て非常に面白かったが、やはり近場で、皆さん同じパイの中で行ったり来たりしているのでは。単純集計だけではなくクロス集計でどの年代がどこにいつているかが分かれば先ほどのコーホート分析の謎も、もう少し解けるのではと思う。
- ・どうしても私たちは人にずっと住んでもらいたい、生まれてから死ぬまで定住してもらいたいと思いがちだが、若い人のニーズを逆手にとって、近隣でフローできるようにすれば良いのでは。子どもを育てるときは豊能町で、高校生になったら川西あたりで、就職すると帰りが遅かったり遊びたかったりするので大阪市に近いところ、出産時は、知っているところで子どもを産みたいので戻ってきてもらう。
- ・広域的に捉えて、また能勢電鉄と金融機関と不動産事業者と上手に、人生をフロー資産化できるようにできたら、空き家の問題も含めて良いのでは。動き続けることも一つの人生の捉え方かと思う。

(事務局)

- ・総合戦略策定後の平成28年に、住まいの多様化プロジェクトに関する計画を作った。豊能町は持ち家率100%近くで、しかも分譲の住宅で、賃貸住宅や集合住宅がないことが弱点ではと仮定し、マーケティングを行った。
- ・しかし試算では豊能町で賃貸の集合住宅を作っても、家賃が豊中や池田などとそん色ないほど家賃が高い。そうしないと採算が取れないという試算であった。
- ・そうすると若いご夫婦、子どもを持っている世帯は、わざわざ豊能町に住むのではなく、豊中や池田など、既にきれいなマンションが建っているので、どうしてもそういったところを選ばれる、という

ことが不動産業界でも分かっている。しかも便利なところを若い人は求める。そういうことで豊能町に新たな多様な住宅のニーズがないだろうという結果が出た。

- ・そこで町では空き家の活用をするべきということで、住宅の多様化よりも住まい方の多様化の方で進んできた。今後ともその方向を変えることはない。大規模開発もあり得ないので、やはり今あるものを活用するという事しかない。
- ・調査の結果、近隣に転出し、近隣から転入してくるので、そのあたりの方をターゲットに、便利さではなく、自然、環境、子育てのしやすさを PR しながらなんとか転入促進と転出抑制を図っていく。先ほど委員から特効薬はなく漢方薬との話があったが、まさにその通りで、それを続けていきたいと思っている。

(委員)

- ・消費者は総合的に見る。“家賃が高ければだめである、であれば家賃が同じ条件ならどうするのか”、とオプションがどんどん増えていく。豊能町であれば教育、かつては教育が強かった、それが今通用するとは限らないが、若い世代に来てもらいたいのであれば、いくつかオプションを総合的に用意するしかない。

(委員)

- ・今後、2025年には団塊の世代が75歳になり始める。それに向けて豊能町でも地域包括ケアシステムを実施しており、今のところ健康な人が多いので順調にしているように思う。ただ、今までの高齢者とその下の団塊の高齢者とは考え方が違うのではないかと考えている。
- ・例えば以前なら後継者のいない遊休農地が増えてくると家庭菜園をする人がいて、空いたら次から次へと埋まっていった。今は空いていくのに新しく家庭菜園をする人はあまり見ない。
- ・今の人は70歳ぐらいまで働かなければならない。63歳ぐらいから何かを始めるのであれば比較的意欲があって70歳になってもできるが、70歳から地域を見て、何かをしようとしても全くの「老後」になってしまう。
- ・このように変化している状況で同じような政策では良くないのでは。若い人を呼んで来る政策も良いが、2025年以降老人は少なくなるので新しい発展はあるだろうが、それまでの老人に対して同じような政策では良くないと思う。

(委員)

- ・無気力世代やZ世代などと言われるように、世代によって違うということもあるので、新しい高齢者像も考えなくてはいけないと思う。

(事務局)

- ・これまで町が実施してきたことは失敗したこともたくさんあったとは思いますが、続けていくべきとも思っている。高齢者や若い人の考え方が変わっているのは確かにその通りであり、それに合わせていかなければならないという点もきっとあると思う。
- ・ただそのあたりの分析はできておらず、どうしたら本当に若い人が定着するのか、高齢者が社会に出

ていき、自分の趣味ではなく社会貢献をする、そういった方がどうしたらできるのかなど色々研究しなければならないと思っている。ただ答えはなく、これから皆で知恵を絞っていかなければならないと思っている。

(委員)

- ・研究で分析などをしていると、人の行動や価値観は変わったりするが欲望は大きく変わらない。ただ、周りを囲んでいる環境がこの世代では変わっている。これまでの高齢者は地縁を頼って過ごしていたが、今の高齢者はもう少し広い世界で、テーマ別で色々な人とつながっており、そういう人たちが地域で見えなくなっている。
- ・高齢者の活動性が弱くなっているのではなく、地域でなく広い範囲に出て行っているということ。それも世代の変化かもしれないが、人として性格が変わっているのではなく、色々な活動の出方がひょっとすると変わってきている世代なのではないかと、学識が集まっている中でも話が出ている。答えはないが、人のもともと持っている欲望や、やりたいことは大きく変わっていないが、周辺環境が変わっているので、その部分を変えていかなければならないと思う。

### 3 豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略の期間延長について（案）

(委員)

- ・調査を複数回するのも、町の費用的な面、住民の負担になるので、あわせてやっていこうということかと思う。

#### 【4】その他

(委員)

- ・先ほど住宅の問題があったが、賃貸住宅についてはコスト面もあるので家賃を低くすることは難しい。しかし、買い取って住むという観点で言うと、非常に魅力的な価格で若い人に住んでもらえるのではないかと。若い人は住宅ローンの額で、自己資金をほとんど用意しなくても良いのではないかと。この部分は逆に大きな魅力ではないかと思うので、豊能町と一緒にアピールしていき、住宅ローンの取り扱いで役に立てればと考えている。
- ・高齢化については止めようがないと思う。ときわ台支店は全店的に見ても非常に高齢者の利用の多い店舗。ときわ台支店、畦野支店、多田グリーンハイツ支店をハートフル店舗と位置づけ、高齢者の方に気持ちよく帰っていただく店舗づくりということで、職員が車いすの取り扱いの仕方を学ぶなどの研修も受けている。床も滑りにくいものに、椅子も倒れないように、またウォーターサーバーを設置しようという試みも考えている。地域の方々にも金融機関としてもっとこういうことをやったらいいのでは、というご意見、ご要望があれば頂戴したいと考えている。